

日本建築学会創立一三〇周年 — 建築としての声を一つに —

日本建築学会会長・
京都大学防災研究所教授
中島正愛
Masayoshi Nakashima



本会および建築の果たす役割

一八八六（明治十九）年四月に造家学会として設立された日本建築学会（以下、本会）は、本年四月九日に創立一三〇周年を迎えました。本会は、会員相互の協力によって建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかり、もって社会に貢献することを目的とする学術団体です。現在、会員は三四、六〇〇余名にのぼり、建築に関わる、調査研究の振興、情報の発信と収集、教育と建築文化の振興、国際交流などの事業活動をを通じて、建築界の進歩発展はもとより、豊かで潤いのある国民生活への環境づくりに精進しています。

わが国においては発展から成熟へと時代が移り少子高齢化の加速が進行する一方で、地球規模で見れば人口が増え経済活動の活性化に伴い多くの開発が進むなど、人類の持続的発展をこれからどう維持するかという究極の問題に、われわれは向き合わなければなりません。人類の持続的発展には新しい生き方が求められますが、その思考において、人とその生活に直結する建築が果たすべき役割は多大了。

わが国の建築は、計画、構造、環境に代表される「多様なジャンル」を包含した幅広い取組みを特徴としています。建築に与えられた責務を一層果たすとともに急速に進むグローバル化にも適応してゆくためには、「多様なジャンル」

本会のような巨大組織を運営することは、海図なき航海のようなもので危険を免れないこと、また、本会のアイデンティティ強化のためにも、中長期の行動計画を定めこれを確実に実行することが求められる」と述べています。また、私は「昨年の会長所信表明において『建築雑誌』二〇一五年六月、計画でも構造でも環境でもない、建築としてのデザインプリンが何であるかが厳しく問われるこれからの時代を生き抜くためには、またそのなかで「実社会との連携」や「学際性の豊かさ」を育むためには、「建築としての声の一つに」の機運を盛り上げる必要があり、そのためにも中長期計画とその実行に資するアクションプランは不可欠であると述べました。

二〇〇六年に公表された本会中長期計画では、二〇一五年度末までのアクションプランが記述されています。建築と本会を巡る内外の事情の変化を踏まえて本中長期計画を見直すとともに、次の一〇年の道標となりうる新たなアクションプランが必要になるとの認識の下、昨年から中長期計画検討タスクフォースを設置し種々検討したうえで、五つのビジョンを掲げるとともに、三〇の行動項目を本年四月に策定いたしました*。

五つのビジョンのうち、「I 建築の未来への貢献」では、社会と国民の安寧に向けて建築が

取り組むべき課題を、地球環境や防災・減災等の息の長い取組みと社会との連携が不可欠なテーマ群や、BIMや健康・スマート化等、新技術の導入や他分野とのコラボを積極的に進めるべきテーマ群として設定し、本会の総力を挙げて推進します。「II 学術基盤の維持と発展」では、建築学という学問領域の発展に対して、本会がより戦略的に行動するための仕組みを作るとともに、学術情報発信の中核である論文集の改革を、特にグローバル化時代の学術発信・評価という視点から推し進めます。「III 国際対応」では、産業、研究・教育等のボーダレス化がますます加速するこれからの時代に、わが国の建築を世界に向けて一層アピールすることに努める他、国を超えた交流の活性化を図ります。「IV 会員ニーズへの対応と増強」では、本会会員へのサービスを一層強化するとともに、特に若年層の本会への誘導を通じた会員増強を図ります。「V 学会の持続的発展」では、一三〇年の歴史をもつ本会の遺産を継承しつつ次の時代に発展させてゆくために、支部活動、出版事業、経営計画等の不断な見直しと活性化を目指します。これら五つのビジョンの下に掲げた三〇の行動項目はホームページのとおりです。

創立一三〇周年記念事業の実施

からなる利点を活かしつつ、今まで以上に、「実社会との連携」や「学際性の豊かさ」を強化しなければなりません。

新たな中長期計画

本会は、二〇〇六年四月に「建築学と本会の発展のための中長期計画—目標の共有とアイデンティティ強化—」と題する中長期計画を策定し、その後の一〇年にわたる運営においては、この計画とそこに示されたアクションプランを、本会運営の一貫性を保つための拠り所としてきました。この計画の取りまとめを主導した村上周三元会長は、会長就任の挨拶（『建築雑誌』二〇〇五年六月）のなかで、「中長期の計画なしに

今年、創立一三〇周年を迎えるにあたり、本会の繁栄を築いてくださった先達の努力に感謝しつつ今までの歴史を振り返るとともに、本会を未来につないでゆくための思考や行動を共有することを目的として、五月三十日に創立一三〇周年記念式典・記念講演・祝賀会を開催いたしました。また、一三〇年略史の刊行（『建築雑誌』別冊号）、二〇一六年度日本建築学会大会（九州）記念大会、グローバル情報発信（作品選集のホームページ公開）、支部連携事業（小中学生を中心とした一般市民向け事業などを各支部で実施）も併せて企画しています。

おわりに

本会創立一三〇年にあたって、次の一〇年を見据えた中長期計画とアクションプランを策定いたしました。このプランに沿った活動を通じて、本会は一丸となって建築の持続的発展に尽くしたいと存じます。またこれを機に、創立一三〇周年記念事業も計画いたしております。日本建設業連合会の皆様とは、同じ建築の仲間として協調と協働を推し進めることによって、建築の持続と発展が確保されるものと信じています。皆様からのご支援とご協力をここに謹んでお願い申し上げますとともに、日本建設業連合会のみならずのご発展をお祈りいたします。